

児童青少年演劇

題字=内木文英

No. 741 / 2022.8.25

公益社団法人
 日本児童青少年演劇協会
 〒102 東京都千代田区六番
 0085 町13-4浅松ビル2A
 TEL 03(5212)4771
 FAX 03(5212)4772
 E-mail: jidogeki@air.linkclub.or.jp
 振替 00110-7-18498
 編集者 蒔田敏雄
 発行者 森田勝也



8月9日(火)、午前10時から11時30分まで、リハーサル室で加藤早恵さんと尾根秀樹さんによる全体講座「げきのチカラ・あそびのチカラ」を開催。

午前・全体講座

「幼児の劇あそび夏季講習会」は、今年で53回を迎えた。今年も、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に「講習会Ⅰ 対面形式」を8月9日(火)に、3年ぶりに開催。午前中「全体講座」、午後「演技講座」4講座を実施し、59名が受講した。また、昨年度に引き続きの試みとして「講習会Ⅱ オンデマンド形式」を開催。視聴期間を7月27日(水)から8月12日(金)までとした。今号で「講習会Ⅰ 対面形式」を、次号で「講習会Ⅱ オンデマンド形式」を報告する。

第53回 幼児の劇あそび夏季講習会
講習会Ⅰ 対面形式 コロナ禍の中 3年ぶりに開催
〈劇あそび〉の楽しさと大切さを実感しました
国立オリンピック記念青少年総合センター

まず加藤さんから、「うそんこを本気であそぶ」と題し、「子どもたちが遊ぶ世界はそのほとんどが虚構の世界」であり、「(本気であそぶ)経験で、将来(本気で生きる)土台が幼児期に形成される」ことが話されました。

そして、「見立てるチカラ 想像から創造へ(協同への遊び)」と題し、「見立ててあそぶ」「即興であそぼう(忍者あそび)」で子どもたちが実際に楽しんだ2つのエピソードの話から、「みえないものを見る力を遊びの中で育て、自由自在に言葉や思いを伝え合い遊び合う」こと、「間違えることを怖がる必要がない」活動なので「やりたい!があふれてくる」こ

とが紹介されました。

続いては、尾根さんより「子どもと保育者の主体 (二人称的な関わり トラブルと共感)」と題し、「へへへのへんしんあそび」の実践から、「子どもの主体的なあそびとは、子どもが本気になって遊ぼう!やりたい!と思う気持ちから発生するもの」であり、「保育者の主導で始まった活動が、子ども主体に変わっていく」と、「トラブルが起きることも大



「うそんこを本気で遊ぶ!」が響きました。表現あそびには正解がないので、楽しいことを共有しながら子どもの主体性を育てていければと思った」(20代・幼稚園)

「先生のお話を聞き、確かに子どもたちは本気で表現・見立て・つもり・ごっこあそびをしていると気づきました。子どもたちの主体性を大切にして劇あそびをするために、小さな発見・つばやきを大切に大切にひろって育てていきたいなと思いました」(20代・保育園)

「うそんこを本気で遊ぶ!」が響きました。表現あそびには正解がないので、楽しいことを共有しながら子どもの主体性を育てていければと思った」(20代・幼稚園)

そして最後にまとめとして、「劇あそびが 子どもが育っていくチカラを育む」と題し、人や物語に共感し、自分たちの物語を創り上げていく過程で、相手の思いや全体の考えに共感していく子どもたちの姿が紹介され、全体としては直接的な劇あそびの楽しさあふれる体験の時間となりました。

「うそんこを本気で遊ぶ!」が響きました。表現あそびには正解がないので、楽しいことを共有しながら子どもの主体性を育てていければと思った」(20代・幼稚園)

「先生のお話を聞き、確かに子どもたちは本気で表現・見立て・つもり・ごっこあそびをしていると気づきました。子どもたちの主体性を大切にして劇あそびをするために、小さな発見・つばやきを大切に大切にひろって育てていきたいなと思いました」(20代・保育園)

「うそんこを本気で遊ぶ!」が響きました。表現あそびには正解がないので、楽しいことを共有しながら子どもの主体性を育てていければと思った」(20代・幼稚園)

「先生のお話を聞き、確かに子どもたちは本気で表現・見立て・つもり・ごっこあそびをしていると気づきました。子どもたちの主体性を大切にして劇あそびをするために、小さな発見・つばやきを大切に大切にひろって育てていきたいなと思いました」(20代・保育園)

「うそんこを本気で遊ぶ!」が響きました。表現あそびには正解がないので、楽しいことを共有しながら子どもの主体性を育てていければと思った」(20代・幼稚園)



午後・実技講座

リハーサル室・中練習室で、12時30分から午後4時までの3時間30分の研修を、4つの実技講座で実施。

① 絵本からの劇あそび

(年少・年中)

び、うそんな遊びを実際にやってみて、小さなことから子どもたちの(楽しい)は生まれていると学びました。私たち大人でも、生卵を大切に渡したり、ひよこを頭に寄せたり、納豆を触った後は手をこすり合わせたりして、本当にやったかのような気持ちになったので、この経験を忘れずに保育につなげたいです」(20代・保育園)

「身体を動かしながら学べる内容でよかったです。見立てる力(イメージする力)が年々子どもたちの中で弱くなっているように感じます。そんな中で、保育の中で少しでも子どもたちの想像力をあぐらませたり、イメージすることを楽しんだりすることができるといいな保育を心がけていきたいと思つた」(30代・幼稚園)



『ちいさなくも』『おもち』『ぶたのたね』『おべんとうバス』『こんやはどんなゆめをみる』『おじいさんのつえ』『まじよのかんづめ』等の絵本をきっかけとして、歌やゲームや見立てなどを取り入れた劇あそびの実践を、子どもたちの活動や反応も含め、受講生たちが子どもの立場になっての実習も併せて紹介。



八木美恵子(劇あそび勉強会)

遠山欣子(劇あそび勉強会)

「劇あそびというとすごく本格的大きいものを考えていたけれど、見立てたり、なりきったりすることで、小さな劇・見立て・表現を楽しめることがよくわかりました。子どもたちとも早くやってみたい!と思えることがたくさんありました」(40代・幼稚園)

「最初に雲になりきったり、おもちになったりすることで、大人たちのかたかった表情が和らいだので、子どもたちならもつと早くこの世界に入り込めるきっかけになるのだろうと感じた。新聞紙を使ったごっこ遊びでは、台本はないけれど、子どもたちの声から物語が作られるので、実際の保育

でもやってみようと思つた」(20代・幼稚園)

「絵本からそのままのストーリーで劇あそびとしてやるのではなく、子どもたちと遊びとして楽しむ。『おもち』や『おべんとうバス』は子どもたちに人気なので、いろいろな題材で楽しめようだなと思つていました。私は二歳児の担任をしているので、なかよしジャンプをさっそく子どもたちが騒がしくなつてしまったときにやってみようかなと思つています」(20代・保育園)

参加できることが楽しめるポイントだとわかつた。昨年劇を作り上げていくのに葛藤したことが多くあつた。今回の講習会で学んだことでやってみようと思つた。保育に生かしていきたいと思つた」(20代・保育園)

先生が楽しもう/絵本で遊ぶう! / 昔話で遊んでみよう! / 劇あそびをつくってみよう! という項目で、歌あそびや劇あそび、『ふしぎなナイフ』『チリとチリ』『いろいろおんせん』『大工と鬼六』等の絵本を用いての劇あそびのいろいろを、実践も含めて紹介。

尾根秀樹(東京家政大学助教)

松下有希(東洋英和幼稚園)

「たくさんの絵本を導入とした劇あそびを学ぶことができました。自分たちで物語に色づけをしていくのは新鮮で、取り入れてみたいと感じました」(20代・幼稚園)



「楽しい劇あそびの実践をたくさん教えてくださり、ありがとうございます。子どもの気持ちって、こんな感じなのかなと思つてはせることができました。わくわくし



体感することができました。2人組になって、話し合っていると、面でも、子どもがどう感じるか、イエスアンドの安心感も同時に体感できました。子どもたちと楽しむことを忘れずに実践に生かしたいです」(40代・幼稚園)

「聴覚から入るリズムや、雰囲気がとても大切であることを学びました。親子での和やかな雰囲気づくりは今後つとめていきたいと思っています」(20代・幼稚園)

「自分が子どもの立場になって行うことで、感じる部分が多かったです。導入から一つ一つついで、つながりをもつて行うことで、子どもたちに間を与えず、集中して取り組んでいけるのだと思っ」(20代・幼稚園)

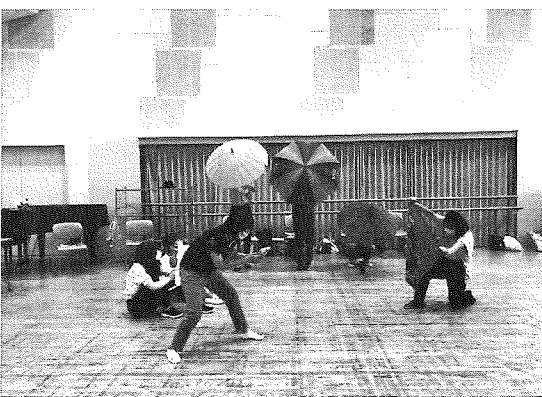


「表現するということが特別なことではなく、だれでも、いつでもできるのだということを感じました。(へのつかる)Yes and」の気持ち、劇だけでなく、日常起きていることにそういう姿勢で向き合ってみたら、おもしろいことが起こりそうだと感じています」(30代・小学校)

④表現遊びで劇あそび〜日常の保育からの発表会〜

いろいろな表現あそび・劇あそびの紹介、三歳児の保育参観での『宇宙人がやってきた』の実践報告と年中組の『ゴリラのパンやさん』実践報告の後、発表会での指導者の「三つの側面的援助」と「とりくみ得5か条」が示された。

山本茂男(森村学園初等部)



加藤早恵(ひなぎく幼稚園)
※当初予定の手塚例子さんは家族の体調不良のため講師変更
「表現のおそれを作る3つの壁が本当にその通りで、苦手意識を感じてしまう原因だなと感じたので、それを打破する3つのRを知って、実践して実際に慣れ、楽しさを感じることができた。子どもたちの中にも同じ壁を感じている子がいると思うので、学んだことを生かしていきたい」(20代・保育園)

「子どもたちの表現力を借りて見立て遊びをすることで、遊びが広がることを知り、今後の保育に取り入れていこうと思います。表現遊びと聞くとすごくハードルが高いうように感じていましたが、何もなくともできるし、物があれば



「話し言葉に頼らなくても、目線や表現だけで、いろいろなことが伝えられるんだなと思いましたが。子どもたちのイメージの世界を広げられるのは、保育者の支えも大きいと感じたので、子どもたちの表現する世界を見逃さず、さらに刺激を与えられるような存在になりたいと思いました。毎日自分自身がスキマ時間にへんしんごっこをする時間を設定して、子どもの表現する力を認め、自信につなげていけるようにしたいと思います」(20代・保育園)

③1・2歳からの劇あそび(親子で劇あそび)

ウォーミングアップ/小さなあそび/工作からの劇あそび/歌を場面のつなぎにした劇あそび/歌をモチーフにした劇あそびというタイトルで、子どもたちの感覚を引き出したり、触れ合いを生みだしたりする活動の数々を紹介し、体験。

大場美保(めぐみ幼稚園)
西脇さやか(劇あそび勉強会)

「実践を通して子どもの立場を



〈コロナ禍〉に負けるな劇あそび!

「ホップ ステップ ジャンプ!」

第15号を発行

蔦田敏雄

◆〈コロナ禍〉での発行も3年目

「劇あそび勉強会研究誌」ホップ ステップ ジャンプ!」は、2008年(平成20年)の第1号からこれまで、毎年一冊の発行を継続、今年で15年目となります。

◆劇あそびの〈チカラ〉 今号の巻頭言は、劇あそび勉強会のメンバーの一人で、東京家政大学児童学科 助教として、〈劇あそび〉を研究されている尾根秀樹さん。『劇あそびのチカラ』というタイトルで、「子どもたちのありのままの姿を認められる」「子どもたち一人ひとりの育ちを感じられる」「自身の保育を見つめられる」ことが劇あそびのチカラだ

◆さらなる発展を目指して この「ホップ ステップ ジャンプ!」は、これまで夏の「幼児の劇あそび夏季講習会」で、ご参加の保育者の先生方に手に取ってもらい、そして9月からの保育で活用してもらってききました。

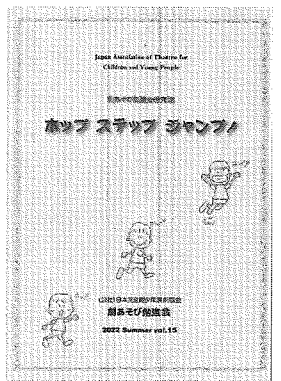
◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て

◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て

◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て

◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て

◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て



ら、「小さな遊びを繰り返し(なりきることを)積み重ねていく」「保育者が演じて見せた劇への参加」と題し、絵本やシフォン、昔話からの劇あそびの報告(大場美保)・お人形(時々ボール)といっしょに劇あそび

お人形やボールのお世話することで、劇あそびの世界を共有し、「お世話する気持ち」も育てる事ができた報告(佐伯真衣さん) コラムの「私と劇あそび」は、勉強会のメンバーとして活躍している、幼稚園教諭の松下有希さん。劇あそびに出会うことで、子どもへのまなざしや保育観までが変わったことが語られています。

「劇あそびアラカルト」は、「子どもたち大好き! 忍者のテーマ曲であそぼう!」(加藤早恵さん)、「かたつむりのおさんぽ」(でておいでよ) (真田美智子さん)、「手形であそぼう」(橋本知子さん)、「おおかみゲーム」(絵本「ちいさなくも」であそぼう) (八木美恵子さん)を紹介。

「保育者が演じて見せる劇」は、「コロナ禍」の状況に対応し、マスクにちよつと鼻などを描いて動物の顔に見立てるなどの工夫ができるミニ脚本2本を掲載。「小さなあそび」は、ちよつと

した時間に取り組めるあそび、劇あそびに近づけていける見立てあそびなど、実際の保育・教育の現場で子どもたちが発信したり、子どもたちとのやり取りの中で保育者が思いついたりしたものをご紹介します。

◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て

◆「おつきさまこんばんは」の絵本を活用した劇あそび 本を適用した劇あそび 児童館での乳幼児親子の子育て

第53回 幼児の劇あそび夏季講習会

講習会Ⅱ オンデマンド形式 報告

7月27日(水)～8月12日(金)に94名が視聴参加

昨年に引き続き開催の「講習会Ⅱ オンデマンド形式」(7月27日(水)～8月12日(金))に、94名が視聴参加。

「講習会Ⅰ 対面形式」の59名と合わせ、今年度の「第53回 幼児の劇あそび夏季講習会」には153名が参加した。

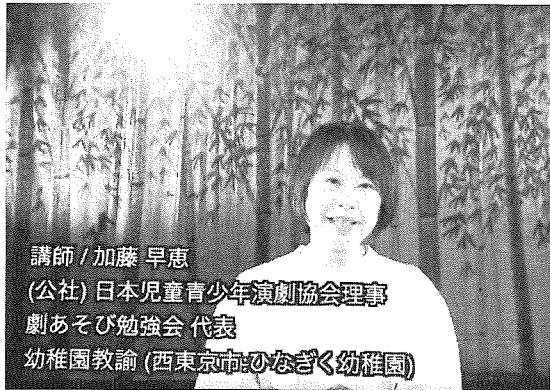
【全体講座】

「劇あそびで育っていくチカラを育もう!」

加藤早恵

(劇あそび勉強会代表/幼稚園教諭)

うそんこを本気であそぶ うそんこの世界で「本気であそぶ」



講師/加藤 早恵
(公社)日本児童青少年演劇協会理事
劇あそび勉強会 代表
幼稚園教諭 (西東京市ひなぎく幼稚園)

▶加藤早恵講師

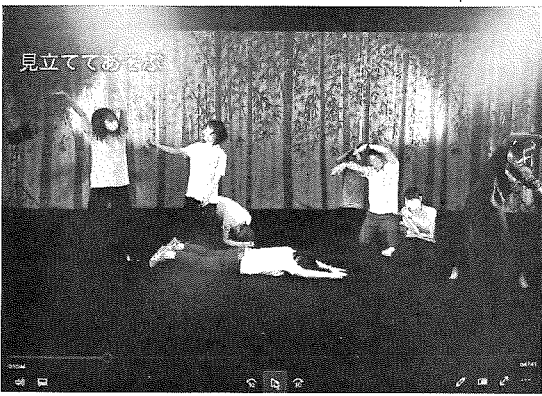
くチカラを育む

劇あそびで、子どもたちは共創世界を創り出し、認め合う、ゆるし合う(仲間)が形成されていき、自己肯定感が育まれていく。

◆劇あそびは演劇ではない!

劇あそびは「演劇」ではなく、劇の発表とはまた別の視点で、保育の中で演劇の持つ特性を活かし、安心して楽しく遊ぶおらかな場。保育の中で劇あそびに取り組みくことを通し、子どもたちが「育っていく力」の糧(本源)を保障

自由自在に言葉や思いを伝え合える遊び合うことができる見立てあそびは、間違えることを怖がる必要がないので、子どもたちの「やりたい!」があふれてくる活動。想像力を協同の中で創造する力とすることができなのが劇あそび。
◆子どもの主体と保育者の主体
〜二人称的な関わり・共感〜
子どもの主体的なあそびとは、子どもが本気になって遊ぼう!やりたい!と思う気持ちから発生するもの。一対全での保育者主導から発展し、複数での自由な表現活動を楽しむなかで、共感して刺激し合う協同体ができあがる。
◆劇あそびが 子どもの育つてい



見立ててあそぶ

してほしい。

「アンケートから」「劇あそびⅡ発表会」思っていたが、子どもたちが物語を作り上げる通過点だということも学べた。映像で、実際の活動の様子を見て、劇あそびとはどんなものなのか、イメージすることが出来た」(20代・幼稚園)

【実践講座①】

「1・2歳といっしょに劇あそび」

西脇さやか

(劇あそび・表現教育ファシリテーター/臨床心理士/元幼稚園教諭)

◆劇あそびとは

「劇あそび」3つのキーワードの説明からスタート。「どこにでも(行ける)」「なんにでも(なれる)」「なんでも(できる)」活動が「劇あそび」。

劇あそびではなんでもありの世界。自分がそのつもりであることが大切。誰かのまねでも、オリジナルの表現でなくて構わない。

◆「想像―共有―創造」を繰り返す、クリエイティブな活動

「想像―共有―創造」のプロセスを繰り返す、クリエイティブな活動である「劇あそび」での大人の役割は、子どもの今の気持ちを感じ、「共感」しながら「共有」し、子どもの表そうとしてい

ことを代弁し、つなぎ役になること。

▶西脇さやか講師



西脇 さやか
劇あそび・表現教育
臨床心理士
幼稚園教諭

◆わらべうたからの遊び紹介

「ねずみ ねずみ どこいきや(わらべうた)」の活動を再現映像で紹介。

その後、実際に0歳からの親子あそびを実施した際の様子を、写真を使いながら解説。

◆子どもたちの声や動きをひろい、アイデアを紡いでいくために

大切にしている「イエス・アンド」は、自分や相手を受け入れ、OKを出しながら、お互いのちがいやよさを認め合い、自分や相手を信じて行動するコミュニケーション方法。

「劇あそび・表現あそび」は、あそびを通して、子どもにとって楽しく自然な形で「生きる力」が



培われていく。

〈アンケートから〉「夢中になって遊ぶ子どもの表現を受容し、生かして保育していきたいと感じた」(30代・幼稚園)

【実践講座②】

「幼児といっしょに劇あそび」

尾根秀樹

(東京家政大学教員／元幼稚園)

教諭・保育士

4歳児クラスで一人遊びが好き
な子が、クリスマスごっこで表現
した「そり」によって、みんなの
表現をつなげ、その子の成長も見
られた事例の紹介。

◆劇あそび「こぐぞこぐぞ」

船をつくり、島へたどり着くま
での道中や島での出来事を、保育
者のリードで行う劇あそび。反応

▶尾根秀樹講師



講師 尾根 秀樹
(東京家政大学 助教 / 元幼稚園教諭 / 劇あそび勉強会)

幼稚園)

を聞き、深く理解できた」(40代・

▶山本茂男講師



講師：山本 茂男 森村学園初等部教諭
(公社)日本児童青少年演劇協会理事
劇あそび勉強会

きたい」(20代・保育園)

「望ましい発表会への取り組み

方」について、五ノ神幼稚園教諭

の手塚例子先生へのインタビュー

を通して紹介。絵本のストーリーリ

をベースに、子どもたちのアイデ

アを生かしながら作っていき、発

表したことを紹介。

◆保育者の三つの側面的援助

発表会に向け保育者が配慮すべ

き三つの側面的援助として

1 構成員の援助

2 演出力の援助

3 共同・共感の援助

があることを示し、まとめとした。

〈アンケートから〉「発表会に向け

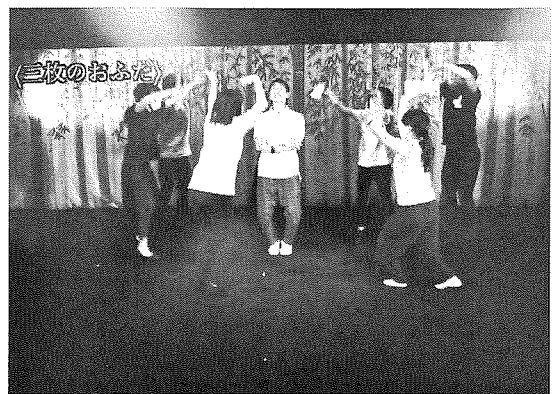
ての考えが整理できた。子どもの

アイデアを生かした発表をしてい

きたい」(20代・保育園)

や興味・関心に合わせ、内容を即興的に変えていくことも大切。
◆劇あそび「いろいろおんせん」
子どもたちに馴染みのある「お風呂」を題材にした劇あそび。
子どもたちとは、毎回違ったオリジナルのおんせんごっこが展開すること、のれんやタオルを用意すると、遊びのイメージが広がるなどのアイデアも示された。
◆素話から〈三枚のおふだ〉へ
保育者の語りを聞きながら子どもたちが自由にイメージを広げていく「素話」。そこから広がる劇あそびを「三枚のおふだ」で紹介。
◆5領域での「表現」のねらい
子どもには、遊びの楽しさや面白さに支えられた活動の中で、自

分を表現していくことが重要。
◆大切にしている3か条
1 子ども主体のあそびに大人が介入する
2 子どもの素直な表現を受容しながら展開していく
3 子ども一人ひとりの育ちの課題を見つめることができる
幼稚園教育の基本には、「遊びを通して総合的な指導が行われるようにすること」を重視しなければならぬと書かれている。劇あそびは、子どもたちの育ちが見え、個々の課題を感じることができ、遊びを通して行える総合的な活動。
〈アンケートから〉「楽しくて分かりやすい。実践と共に理論や理念を聞き、深く理解できた」(40代・



【実践講座③】

「発表会につながる劇あそび」

山本茂男

(森村学園初等部教諭)

◆表現活動への理想的なステップ

導入とそこからの発展事例として「ゴキブリダンス」を再現映像で紹介。

幼児の発達段階と表現との関係と、表現活動への理想的なステップについて紹介。

1 自分を発見する段階

2 自己表現の段階

3 他者共感の段階

4 集団想像表現の段階

5 集団創作表現の段階

「いっぽんばし わたる」の劇あそびの展開を映像で紹介。



◆望ましい発表会への取り組み

「望ましい発表会への取り組み方」について、五ノ神幼稚園教諭の手塚例子先生へのインタビューを通して紹介。絵本のストーリーリをベースに、子どもたちのアイデアを生かしながら作っていき、発表したことを紹介。

◆保育者の三つの側面的援助

発表会に向け保育者が配慮すべき三つの側面的援助として

1 構成員の援助

2 演出力の援助

3 共同・共感の援助

があることを示し、まとめとした。

〈アンケートから〉「発表会に向け

ての考えが整理できた。子どもの

アイデアを生かした発表をしてい

きたい」(20代・保育園)

子どもたちが夢中になる劇あそび2022沖繩 幼児の劇あそび講習会 in 20th りっか*フェスタ

東京家政大学助教 尾根秀樹

劇あそび勉強会の代表をされていた故蓑田正治先生が生前よくおっしゃっていたのが「劇あそびを全国に広げよう」という言葉でした。その言葉を胸に、劇あそびが保育にもたらすチカラを実感している劇あそび勉強会の有志が集まって始めた沖繩での講習会。早いもので、今回が5回目の実施となりました。

本来でしたら今年1月の「第19回りっか*フェスタ」でも実施予定だったのですが、ちょうど



どその時期、猛威をふるったコロナウイルスのオミクロン株のため、直前で中止を余儀なくされるという、大変残念な結果となってしまいました。

ですので、今回の開催にあたっては、前回の中止のくやしさを糧に、リベンジを果たそうと、熱い思いで準備にあたったのですが、何と言っても講習会は受講生の皆様の参加があつてこそ。申し込んでくださった方々が本場に当日来てくださるのか不安を覚えて、沖繩入りをしました。

しかし当日は、参加予定の受講生の皆様が会場である沖繩県教育会館に集まってくださり、無事に講習会がスタートしました。

劇あそび勉強会代表の加藤早恵さんによる講義を皮切りに、私と加藤さんとでいくつかの劇あそびの実践の報告と実習とを行なっていく、あつという間に3時間が過ぎました。

本来、劇あそび講習会では、表現活動において重要であるスキップを多く取り入れることで、

保育での実践をイメージしやすいよう、プログラムを構成しています。しかし今回は、触れ合いは最低限（接触した後は手指消毒を徹底）とし、口頭で伝える形式を多くしました。

そのため、受講生の方々に、この劇あそび講習会が大切にしてほしいという思いや「劇あそびで育つ子どもたちのチカラ」がどれだけ伝わったのかという点に、正直なところ不安がありました。

しかし、終了後のアンケートでは、「今すぐ園に帰ってやってみよう！」と思いました。「子ども主体でどんどん広がっていくことを表現して楽しむ劇あそび、現場でぜひ活かして、子どもたちの想像力、イメージ、アイデアを、自分を表現できるような環境を工夫していきたいと思いました」、「見立てたり、役になりきったり、表現する事に苦手意識があつたのですが、実際に体を動かす事で、自由な表現を楽しみ事ができました」

などのお言葉をいただきました。



触れ合う場面を減らすために、言葉で伝える場面が多くなり、不安に思っていました。受講してくださった方々には、私たちが伝えたいと思っていた劇あそびの魅力がちゃんと伝わっていたことを、大変嬉しく思いました。

コロナ禍で、対面実施をするのとにどれだけ意味があるのかと悩み、分からなくなる事もありましたが、参加者の声を聞いたり、参加して活動している姿を見たりするなかで、対面実施をすることの重要性を改めて感じさせられ、対面での講習会を実施したことはやはりよかつたのだと実感することができました。

感染拡大が一向に収まらないなか、今後何を重視すべきなのか

という問題は常につきまとうものであり、賛否両論ある事だと思えます。ただ、今回「対面だからこそ伝えられる事」、「対面では伝えられない事」を強く感じられた講習会となりました。

また、こういった状況だからこそ、表現とは何なのかを考えさせられ、保育における「劇あそび」の必要性を探究していくべきだと改めて考える機会となりました。

最後となりますが、今回の沖繩での劇あそび講習会は、「りっか*フェスタ」総合プロデュースの下山久さんはじめ、エーサーの沖繩の運営スタッフの皆様のご尽力のおかげで実施に至ることができました。ありがとうございました。

協 会 メ モ

8月8日(月) 劇作家養成講座(オンライン開催)

8月9日(火) 第53回幼児の劇あそび夏季講習会 講習会I対面形式(オリンピックセンター)

8月27日(土) 大阪・劇あそび勉強会(J・COM中央区民センター)

(編集委員)

蒔田敏雄/新井浩介/石坂慎二/

関 明/高垣信子/西垣耕造/

藤崎万喜男/森田勝也